

ポスター発表P-9

看護学実習における臨床実習施設との
連携に関する研究

藤田あけみ¹⁾ 吉川由希子¹⁾ 村松 仁¹⁾
上泉 和子¹⁾ 熊野 則子²⁾ 副田 幸子³⁾
石川 信三⁴⁾ 鈴木恵里子⁴⁾ 川村 明美⁵⁾

1) 青森県立保健大学

2) 青森県立中央病院

3) あおもり協立病院

4) 青森県立つくしが丘病院

5) 公立野辺地病院

Key Words : ①臨地実習 ②実習指導体制 ③役割分担
④連携

I. はじめに

看護学教育における臨床実習は極めて重要であり、看護実践能力の育成上においても最も重要であると位置づけられている。しかしながら、指導体制上の問題、教育と臨床の連携の問題、教員の指導に関する資質の課題、臨床実習指導者としての課題などが指摘されている。

そこで、本学の臨床実習施設の臨床看護師と本学教員を対象に臨床実習の指導体制の現状、臨床看護師と教員の役割分担等を調査し、臨床実習施設との連携のあり方について検討した。

II. 目的

臨床実習における臨床側の指導体制の現状、実習指導者教育の現状、教員、実習指導者の実習の役割分担を明らかにし、連携のあり方について検討する。

用語の操作的定義 本研究において、「臨床看護師」は実習受入施設の看護職員を指す。

III. 研究方法

1. 対象：本学の看護学領域の臨床実習を引き受けている4病院の実習担当看護職員580名、本学看護学科臨床実習担当教員40名

2. 調査期間：平成16年10月15日から11月30日

3. 方法：独自に作成した調査用紙を配布し、留置法で回収した。

4. 調査内容

臨床看護師：基本属性、臨床経験、実習指導者教育の状況、臨床実習指導体制の状況、臨床実習の指導内容に関する31項目を独自に作成し、臨床の看護師自身と教員、それぞれの実施の程度を6件法で測定した。その他、実習施設の看護について課題や臨床実習における課題について自由記述で回答を得た。教員：基本属性、職位、担当領域、臨床経験、看護教育経験、臨床実習指導体制の状況、臨床実習の指導内容に関する31項目について、教員自身と臨床看護師の実施の程度を5件法で測定した。その他、実習施設の看護について課題や臨床実習における課題について自由記述で回答を得た。

5. 分析

SPSS 12.0J for Windows を使用し、各項目について単純集計を行い、実習内容に関する31項目は記述統計量での比較と因子分析を行った。自由記述については、内容分析を行った。

6. 倫理的配慮

臨床実習指導者に対しては、調査依頼文に調査の趣旨と回収は無記名とし統計処理により個人が特定されないことを明記した。教員に対しては、調査依頼文に調査の趣旨と倫理的配慮として、回収は無記名であるが個人が

特定される可能性があることを明記した。さらに両者に、研究以外に使用しないこと、研究内容に関する研究者への問い合わせができること、倫理上の問題に関して本学の倫理委員会に問い合わせができることを明記した。

IV. 結果および考察

臨床指導者の回収数は476部（回収率：83.1%）、有効回答数441部（77.0%）、教員の回収数は11部（回収率：27.5%）であった。

1. 臨床実習における臨床側の指導体制の現状、実習指導者教育の現状

臨床看護師の看護基礎教育の現状は、看護系大学卒業が約8%、看護系短期大学3年過程卒業が17%であり、ほとんどが看護専門学校卒業であった。また、臨床実習指導者講習会の受講者は89人（20.3%）で、臨床実習中に実習指導者として専任で指導を行っている人は、5.5%であり、臨床看護師が実習指導に費やす時間は2時間未満が最も多かった。看護の課題の自由記述では、【実習指導体制の問題】、【実習指導に関する課題】が多く、業務が多忙で実習指導ができない、実習指導能力に差があると感じていた。その他、臨床看護師の多くが【看護実践の問題】を感じており、教員の半数も同様に課題と感じていた。看護師の質の問題を感じている臨床看護師は、実習指導者講習会を受講していない人であった。これらから、臨床看護師は看護基礎教育や実習指導者講習会受講の有無により、大学教育における実習指導に困惑し、多忙な業務の中で実習指導を行うことに負担を感じていると推測される。

2. 臨床実習における教員と臨床看護師の役割分担と連携について

臨床看護師が認識した自己の役割については、臨床実習指導者に任命されている臨床看護師の役割認識として7つの因子が抽出され、臨床看護師自身が主または協力して行う項目とあまり行わない項目が明確であり、役割意識を明確にもっていると考えられた。「見学調整や他の医療スタッフとの調整」「スタッフへの説明や実習環境の調整」などは任命されている臨床看護師は、やや主に行う項目として捉え、「学生の技術の指導、看護計画を立案するプロセスでの助言」「対象理解や学習内容との関連づけ」などは、協力して行う項目として捉えていた。任命されていない臨床看護師は、臨床実習指導者として役割意識が低かった。

任命されている臨床看護師が捉える教員の役割認識として6つの因子が抽出され、教員と臨床看護師が主として行う項目に明確な区別があった。看護計画の立案までのプロセスから実習の評価やカンファレンスの指導と看護師の役割理解、学生への実習オリエンテーションや実

習全体計画などは教員が主として行う項目として捉えていた。実習施設のスタッフへの実習の説明は、協力して行う項目として捉えていた。任命されている臨床看護師が捉えた自分自身と教員の役割認識の比較では、教員の役割認識が低い項目は臨床看護師自身の役割認識が高く、任命されている臨床看護師の認識の中で整合性がとれていると考えられた。任命されていない臨床看護師では、すべての項目で教員が主に行う役割と認識しており、任命されている臨床看護師自身は協力するものと考えていた。

これらから、臨地実習指導者の任命の有無によって、それぞれの役割分担の認識が大きく異なっており、任命されていない臨床看護師自身、実習指導者の一員であるという意識を高めるような施設側の意識付けや実習前の施設との調整内容について検討する必要がある。

以上のことから、臨床実習施設と連携をとり、臨地実習を効果的に進めるためには、臨床側の実習指導者、臨床看護師、教員の実習指導における役割分担の程度を具体的に示すことが必要と考える。そのために、教員、実習指導者ともに今以上の話し合いをもち、教員が臨地実習の中で果たす役割や調整について明確に実習施設に提示していくことが必要である。また、実習の目標を達成するにあたっての進捗状況や問題点の解決、重要課題についての情報提供など、絶えず率直な交流が必要と考える。さらに、ユニフィケーションや共同で看護研究を行うなど、積極的な交流により、連携を深めることも必要と考える。